

令和 7 年度

授業内容の概要

1 年 次

竹早教員保育士養成所

ま え が き

英語の「シラバス(syllabus)」は、ギリシャ語の *sittuba*、「羊皮紙性の書籍のラベル」という意味の言葉を語源としているといわれています。日本では「シラバス」を「講義内容の要目あるいは概要」などのように訳されています。

では、「シラバス」とは何でしょうか。これは学校の教育活動に関する細かな計画書ということになります。シラバスの中には、教科・科目をはじめとする様々な教育活動について、目標、指導内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等が記載されています。

平成 29 年 3 月「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が関係大臣から告示されました。また、平成 31 年度より、教職課程では教科の大きくくり化により領域に関する専門的事項に関する科目が新しく開設されました。さらに特別支援に関する科目及び子ども理解に関する科目が加わりました。保育士養成課程では乳児保育の充実と学ぶべき内容の再編が行われました。どちらの課程もより質の高い保育者を養成するためのものです。その意図するところを受けとめ、シラバスの一層の充実が期待されます。

先生方には、それぞれ担当されている授業について、今次の改訂の意図を受けとめると共に、具体的に教室の中での活動を念頭において、作成して下さるようお願いをしました。そのため、授業のテーマ及び到達目標、授業の概要、授業計画が示されています。更にテキストの他に、より深く学ぶための参考文献の紹介もされています。そのことは、1 単位の授業科目について「授業時間外に必要な学修を考慮して」という文言が短期大学設置基準に示されていることから、授業時間外における学習方法の具体的な提示とも関連しています。学生の皆さんは授業に参加するとき、この「シラバス」を活用して、当日の授業の内容を理解してから学習に取り組んで欲しいと期待しています。

先生方には、相互の授業内容の調整に活用していただくと共に、授業アンケート、授業相互参観を通して、学生の主体的な学びの追及に努めてくださるようお願いするところがあります。

授業は教員と学生で作り上げる共同作業です。学生は授業に遅刻せず、欠席せずに参加することで、その責任を果たさなければなりません。授業に意欲的に取り組むことで、自らの保育者としての資質の向上に努めてください。

いま保育の場が求めているのは、意欲的・継続的に物事に取り組む保育者です。

学生の皆さんは、2 年間の竹早教員保育士養成所での学習を通して、このような資質の体得に努めて欲しいと期待しています。

竹早教員保育士養成所

令和7年度 学 校 暦

前 期			後 期		
4月	2日 (水) 3日 (木) 4日 (金) 7日 (月) 24日 (木) 27日 (日) 29日 (火)	学業指導(1年・2年) 講師連絡会 入学式 学業指導・定期健康診断(1・2年) 前期授業開始 新入生歓迎会 学校説明会① 昭和の日(平常授業)	10月	5日 (日) 13日 (月) 15日(水)～28日(火) 19日 (日)	開校記念日 スポーツの日(平常授業) 教育実習(幼稚園)(1・2年) 入試B①・指定校①
5月	3日 (土) 4日 (日) 5日 (月) 6日 (火) 11日 (日) 14日 (水) 16日(金)～18日(日) 19日 (月) 19日(月)～6月1日(日) 28日 (水)	憲法記念日 みどりの日 こどもの日 振替休日 学校説明会② 校外学習(2年) 宿泊研修 1年休み 保育実習Ⅰ(施設)(2年) 幼稚園見学実習(1年)	11月	3日 (月) 16日 (日) 23日 (日) 24日 (月)	文化の日(平常授業) 説明会⑩入試B②・指定校②・C① 勤労感謝の日 振替休日(平常授業)
6月	1日 (日) 12日 (木) 15日 (日) 27日 (金) 29日 (日)	学校説明会③ 体育研修 学校説明会④ 後援会総会 学校説明会⑤	12月	14日 (日) 20日 (土) 23日 (火) 24日 (水) 25日 (木) 26日 (金) 27日(土)～1月4日(日)	学校説明会⑫入試B③・C② 保育研究発表会 振替休業日(10月13日分) 振替休業日(11月3日分) 振替休業日(11月24日分) 振替休業日(12月20日分) 冬季休業
7月	6月30日(月) ～13日(日) 13日 (日) 21日 (月) 22日(火)～28日(月) 27日 (日)	保育実習Ⅱ・Ⅲ (保育所・施設を選択)(2年) 学校説明会⑥・入試A①面談 海の日(平常授業) 前期試験(1年) 学校説明会⑦	1月	1日 (木) 5日 (月) 12日 (月) 19日(月)～2月1日(日)	元日 授業開始 成人の日 保育実習Ⅰ(保育所)(1年)
8月	8日 (金) 25日 (月) 25日(月)～9月4日(木) 31日 (日)	学校説明会⑧・入試A②面談 授業開始(2年) 教育実習指導(1年) 学校説明会⑨	2月	2日(月)～5日(木) 8日 (日) 11日 (水) 16日(月)～19日(木) 23日 (月) 27日 (金)	後期試験(2年) 学校説明会⑬・入試C④ 建国記念の日(平常授業) 後期試験(1年) 天皇誕生日 成績判定会議(卒業認定)(2年)
9月	7日 (日) 8日(月)～11日(木) 12日 (金) 15日 (月) 22日 (月) 23日 (火) 25日 (木) 26日 (金) 28日 (日) 29日 (月)	入試A③面談 前期試験(2年) 成績判定会議(1年) 敬老の日 振替休業日(7月21日分) 秋分の日 入試A書類選考 成績判定会議(2年)・保証人会 学校説明会⑩ 後期授業開始	3月	1日 (日) 6日 (金) 11日 (水) 12日 (木) 14日 (土) 16日 (月) 20日 (金) 23日 (月) 26日 (木)	学校説明会⑭・入試C④ 成績判定会議(1年) 学業指導・取得単位通知表交付(2年) 学業指導(1・2年) 卒業式 学業指導・取得単位通知表交付(1年) 春分の日 新入生招集日 学校説明会⑮

〔学則別表第1〕

幼児教育専門課程 幼稚園教員・保育士科

区分		開設科目名	授業の方法	必修・選 択の別	1 年次				2 年次				卒業必要時数 (単位数)	
幼	保				前期		後期		前期		後期			
					単位数	授業時数	単位数	授業時数	単位数	授業時数	単位数	授業時数		
科目 6 に 定 め ら れ る	教育職 員 免 許 法	教養科目	教養科目	共 日本国憲法	講義	必修	2	30						30 (2)
				共 保健体育Ⅰ	講義	必修	1	30						30 (1)
				共 保健体育Ⅱ	実技	必修			1	30				30 (1)
				共 情報機器の操作	演習	必修	1	30	1	30				60 (2)
				共 英語コミュニケーション	演習	必修	1	30	1	30				60 (2)
				保 言語教育	講義	選択	2	30						1科目選択 30 (2)
保 国語表現	講義	選択	2	30										
保 生活科学	講義	選択	2	30										
領域及び 保育内容の 指導法に 関する科目	教育の 基礎的理 解に 関する 科目	告示別表1 による教科 目	共 子どもと健康	演習	必修						1	30	30 (1)	
			共 子どもと人間関係	演習	必修				1	30			30 (1)	
			共 子どもと環境	演習	必修				1	30			30 (1)	
			共 子どもと言葉	演習	必修				1	30			30 (1)	
			共 子どもと表現	演習	必修				1	30			30 (1)	
			共 健康指導法	演習	必修				1	30			30 (1)	
			共 人間関係指導法	演習	必修						1	30	30 (1)	
			共 環境指導法	演習	必修						1	30	30 (1)	
			共 言葉指導法	演習	必修						1	30	30 (1)	
			共 表現指導法A	演習	必修				1	30			30 (1)	
			共 表現指導法B	演習	必修						1	30	30 (1)	
			共 保育内容総論	演習	必修	1	30						30 (1)	
		告示別表2 による教科 目	保 子育て支援	演習	必修				1	30			30 (1)	
			保 乳児保育Ⅰ	講義	必修	2	30						30 (2)	
			保 乳児保育Ⅱ	演習	必修			1	30				30 (1)	
			保 子どもの健康と安全	演習	必修			1	30				30 (1)	
			保 社会的養護Ⅱ	演習	必修				1	30			30 (1)	
			保 音楽表現	演習	選択				1	30	1	30	1科目選択 60 (2)	
			保 造形表現	演習	選択				1	30	1	30		
			保 身体表現	演習	選択				1	30	1	30		
			保 児童文化A	演習	選択				1	30	1	30	1科目選択 60 (2)	
			保 児童文化B	演習	選択				1	30	1	30		
			保 保育教材研究	演習	選択				1	30	1	30		
		告示別表1 による教科 目	共 保育カリキュラム論	講義	必修			2	30				30 (2)	
			共 特別支援保育	演習	必修	1	30	1	30				60 (2)	
			共 教育原理	講義	必修	2	30						30 (2)	
			共 保育者論	講義	必修			2	30				30 (2)	
			幼 教育経営	講義	必修			2	30				30 (2)	
			保 保育原理	講義	必修	2	30						30 (2)	
			保 子ども家庭福祉	講義	必修	2	30						30 (2)	
			保 社会福祉	講義	必修	2	30						30 (2)	
			保 子ども家庭支援論	講義	必修						2	30	30 (2)	
			保 社会的養護Ⅰ	講義	必修			2	30				30 (2)	
		告示別表2 による教科 目	共 発達心理学Ⅰ	講義	必修			2	30				30 (2)	
			保 子ども家庭支援の心理学	講義	必修						2	30	30 (2)	
			保 子どもの保健	講義	必修	2	30						30 (2)	
			保 子どもの食と栄養	演習	必修	1	30	1	30				60 (2)	
			保 発達心理学Ⅱ	演習	選択				1	30	1	30	1科目選択 60 (2)	
			保 臨床心理学A	演習	選択				1	30	1	30		
			保 臨床心理学B	演習	選択				1	30	1	30		
		告示別表1 による教科 目	共 子ども理解の理論と方法	演習	必修			1	30				30 (1)	
			幼 幼児教育方法論	講義	必修						2	30	30 (2)	
			幼 教育相談論	演習	必修				1	30	1	30	60 (2)	
			幼 教育実習指導	演習	必修	1	30						30 (1)	
			幼 教育実習	実習	必修			2	90			2	90	180 (4)
			保 保育実習指導Ⅰ	演習	必修			1	30	1	30		60 (2)	
			保 保育実習Ⅰ	実習	必修			2	90	2	90		180 (4)	
			保 保育実習指導Ⅱ	演習	選択				1	30			1科目選択 30 (1)	
			保 保育実習指導Ⅲ	演習	選択				1	30				
			保 保育実習Ⅱ	実習	選択				2	90				
		告示別表1 による教科 目	保 保育実習Ⅲ	実習	選択				2	90			90 (2)	
			共 保育・教職実践演習	演習	必修						2	60	60 (2)	
			幼 音楽Ⅰ	演習	必修	1	30	1	30				60 (2)	
			自然体験	実習	必修	1	30						30 (1)	
			体育	演習	必修				1	30			30 (1)	
計			必修科目授業時数			540		630		360		390	1950時間	
			選択科目授業時数			30				210		90	330時間	
			必修総単位数			23		24		13		16	76単位	
			選択総単位数			2		0		6		3	11単位	

◇選択科目の履修方法 2年以上在学し、330時間以上（11単位以上）履修するものとする。

*保育実習については、保育実習Ⅱを選択する場合は保育実習指導Ⅱを選択する。保育実習Ⅲにおいても同様とする。

卒業に必要な単位数及び総授業時数	必修単位	選択単位	卒業単位	総授業時数
	76単位	11単位以上	87単位以上	2280時間以上

目 次 (1年次)

◇まえがき

◇学校暦

◇教育課程

◇目 次

◇竹早の教育課程

I 必修科目

科 目 名	開設 時期	担当教員名	ページ	科 目 名	開設 時期	担当教員名	ページ
日本国憲法	前 期	須釜 久美子	1	子ども理解の 理論と方法	後 期	○ 辻 杉 子	22
保健体育Ⅰ	前 期	三 浦 美 知 子	2	教育実習指導	前 期	中 村 香 津 美 高 橋 順 子 他	23
保健体育Ⅱ	後 期	三 浦 美 知 子	3				
情報機器の操作	通 年	白 鳥 義 明	4	教 育 実 習	後 期	1 年 担 任 他	24
英語コミュニケーション	通 年	渡 邊 毅	5	保育実習指導Ⅰ (保育所)	後 期	上 藤 千 香 子 高 橋 系 子	25
保育内容総論	前 期	小 川 貴 代 子	6				
乳児保育Ⅰ	前 期	○上藤 千香子	7	保 育 実 習 Ⅰ (保 育 所)	後 期	1 年 担 任 他	26
乳児保育Ⅱ	後 期	○秋山 照呼	8	音 楽 Ⅰ	通 年	音 楽 講 師	27
子どもの健康と安全	後 期	島 崎 智 子	9	自 然 体 験	前 期	1 年 担 任 他	28
保育カリキュラム論	後 期	東 智 子	10	Ⅱ 選択科目			
特別支援保育	通 年	○大井 靖	11	言 語 教 育	前 期	辻 杉 子	29
教育原理	前 期	平 野 朝 久	12	国 語 表 現	前 期	須 釜 久 美 子	30
保育者論	後 期	○高橋 順子	13	生 活 科 学	前 期	中 山 史 子	31
教育経営	後 期	高 橋 武 郎	14	音楽Ⅰ 音楽講師			
保育原理	後 期	○上藤 千香子	15	片 桐 典 子		仕 入 順 子	
子ども家庭福祉	前 期	○大沢 博	16	佐 藤 良 子		毛 塚 真 美	
社会福祉	前 期	高 橋 武 郎	17	鉄 矢 千 絵		水 城 祐 美	
社会的養護Ⅰ	後 期	渡 井 隆 行	18	須 田 マ リ		生 田 美 子	
発達心理学Ⅰ	前 期	安 西 豪 行	19				
子どもの保健	前 期	島 崎 智 子	20				
子どもの食と栄養	通 年	加 藤 和 子	21				

○…実務経験あり

竹 早 の 教 育 課 程

1. 幼稚園教員・保育士科の教育課程

(1) 基本方針

- ① 幼稚園教員・保育士としての識見・教養を豊かにし、実践的な指導力を身に付けることを目指します。
- ② 竹早教員保育士養成所の教育課程は、幼稚園教諭2種免許状と保育士資格取得に必要な法的根拠に基づいて編成されています。

そのため、教員・保育士として期待される教養、識見を高める科目を始め、必要とされる専門性や技能を修得するための科目が開設されています。また、その中には教育・保育の実際を体験する実習も含まれています。

(2) 授業の方法

- ① 授業は、講義、演習、実験、実習あるいは実技といった形態で行われます。これら授業科目に対する単位数は、短期大学設置基準によるものです。
- ② 講義は、1コマ90分、15回以上の授業をもって2単位、演習は1コマ90分、15回以上の授業をもって1単位となっています。2単位の場合は30コマ以上の授業となります。

2. 開設科目の履修

(1) 教育課程(学則第14条)

竹早教員保育士養成所の教育課程は、教育職員免許法施行規則、児童福祉法施行規則の規定に基づいて、授業科目が開設されています。また、授業科目は必修科目と選択科目に分かれており、2年間でこれらの科目をすべて修得しなければ卒業することはできません。

(2) 単位の認定(学則第18条)

単位習得の認定は、竹早教員保育士養成所の教育課程に示されている開設科目の授業の単位習得に必要な授業時数の5分の4以上の出席者に対して、学力試験、平素の学習状況を総合評価して行います。評価は、優・良・可・不可で表し、優・良・可までが合格です。

(3) 選択科目の履修

① 1年次

学 年	選 択 の 内 容	単 位
1 年 前 期	言語教育・国語表現・生活科学から1科目選択	2単位

② 2年次

学 年	選 択 の 内 容	単 位
2 年	発達心理学Ⅱ・臨床心理学A・Bから1科目選択	2単位
	音楽表現・身体表現・造形表現から1科目選択	2単位
	児童文化A・B・保育教材研究から1科目選択	2単位
	保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲから1科目選択	2単位
	保育実習指導Ⅱ・保育実習指導Ⅲから1科目選択	1単位

(4) 科目の再履修

- ① 第1学年で未修得単位があると、成績判定会議で次年次再履修するかが決まります。
第2学年においては、未修得単位があると留年となります。
- ② 音楽Ⅰのみは、2年前期に再履修することができます。
- ③ 再履修・留年の場合は未修得単位の科目を開設している期（前期又は後期）の授業料等を
科目数に応じて納付し、再度当該科目を履修します。なお、留年は2ヵ年までです。

3. 卒業の要件

	必修科目	選択科目	履修時間数
幼稚園教員・保育士科	76単位	11単位以上	2280時間以上

(竹早教員保育士養成所 学則 第19条)

科 目 名	日本国憲法	担当教員	須釜久美子
実施学期	前期		
授業形態	講義	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	〈テーマ〉 ・日本国憲法の基本原理(国民主権、平和主義、基本的人権の尊重) ・立法(国会)、行政(内閣)、司法(裁判所) 〈到達目標〉 日本国憲法の三原則(国民主権、平和主義、基本的人権の尊重)の理解を深め、保育者として必要な知識を身に付ける。		
授業の概要	基本的人権を中心に日本国憲法について学び、現実、身の回りで起こる出来事に関心を高められるように展開する。社会の様々な問題に対する考えを論としてまとめたり、グループ討議をしたりして、授業に積極的に参加するよう進める。特に、日本国憲法の基本的な知識や考え方を身に付け、「法」を踏まえて物事を見る目を培うことができるようにする。		

【授業計画】	
前期	後期
1 憲法の意義(立憲主義・憲法の誕生) 2 日本国憲法の基本原理 3 天皇(地位・権限) 4 基本的人権(権利の主体・幸福追求権) 5 基本的人権(法の下での平等) 6 基本的人権(精神的自由) 7 基本的人権(社会権、参政権) 8 基本的人権(国民の義務) 9 立法(国会 41条～53条) 10 立法(国会 54条～64条) 11 行政(内閣) 12 司法(裁判所) 13 財政、地方自治、改正 14 日本国憲法における三権分立の政治原理 15 まとめ(憲法と日常生活、保育者としての関わり)	
定期試験	

テキスト	「最新保育小六法・資料集2025」(ミネルヴァ書房) 「目で見える憲法[第6版]」(有斐閣)
参考文献	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 授業中に適宜資料を配布する。
授業時間外における学習方法	【事前学修】テキストのうち、授業内容に該当する部分を読んでおくこと。 【事後学修】授業の内容を踏まえ、テキストを読み直し、学習内容の定着を図ること。
成績評価の方法	定期試験(70%)、授業参加意欲・態度・課題提出(30%)により、総合的に評価する。 なお、授業の振り返りレポートも評価の対象とする。
その他・注意事項	授業に意欲的・積極的に参加し、一回一回の振り返りを大切にし、内容を確認なものとする。

科 目 名	保健体育 I	担当教員	三浦 美知子
実施学期	前期		
授業形態	講義	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	乳幼児期の心身の発達段階を理解し、運動あそびの意義やあり方を学んだり、保育者にとってのこころと体の健康を考える。 ・乳幼児期における運動あそびの意義やあり方が理解できる。 ・運動指導における環境設定・指導上の留意点・安全管理について理解できる。 ・こころと体の健康管理について課題を見つけ、課題解決に向けての改善策を提供できる。 ・主体的に授業に取り組んだり仲間と協力して活動することができる。
授業の概要	本授業では、教室において乳幼児期における遊びの意義やあり方を講義形式で学ぶ。 また、学生自身のこころと体の健康についてグループ学習にて課題を見つけ、調べたり討議しながら課題解決の方法を探究する。

【授業計画】	
前期	後期
1 オリエンテーション:授業のねらい・授業内容・注意事項	
2 運動はなぜ幼児に大切な(pp8-16)	
3 動きの発達と運動(pp23-28)	
4 心の発達と運動(pp28-33)	
5 社会性(ルール)・知的な発達と運動(pp33-40)	
6 動機づけと運動(pp53-60)	
7 運動指導のポイント:運動の量を考える(pp61-64)	
8 運動指導のポイント:運動の質を考える(pp65-69)	
9 運動指導のポイント:環境を工夫する(pp69-73)	
10 運動指導のポイント:安全を考える1(pp73-77)	
11 運動指導のポイント:安全を考える2(pp78-81)	
12 こころと体の健康:ストレスと保育者	
13 こころと体の健康:ストレス対処法と保育者	
14 こころと体の健康:運動と保育者	
15 総括	
定期試験	

テキスト	「保育と幼児期の運動あそび」岩崎洋子編 萌文書林
参考文献	「幼稚園教育要領」(平成29年度告示) 「保育所保育指針」(平成29年度告示) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年度告示) 「幼児の運動遊び 幼児期運動指針に沿って」吉田伊津美偏著 チャイルド社
授業時間外における学習方法	シラバスを確認し、講義当日までに教科書該当箇所目を通しておくこと。
成績評価の方法	筆記試験・不定期理解度確認テスト、日ごろの授業への取り組む姿勢により、総合的に評価する。
その他・注意事項	授業への欠席・遅刻には厳しく対処するので、そのつもりで臨むこと。

科 目 名	保健体育Ⅱ	担当教員	三浦 美知子
実施学期	後期		
授業形態	実技	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	発達段階にふさわしい運動あそびの指導計画作成・実践・ふり返りと学生自身の健康保持増進 ・学生自身の体力向上。 ・発達段階にふさわしい運動あそびの目的・内容・方法の理論に基づいた指導計画の作成ができる。 ・対象児を想定した運動あそびにおける指導計画作成・実践・ふり返り記録の作成ができ、次の指導へつなげようとする。 ・主体的に授業に取り組んだり仲間と協力して活動することができる。
授業の概要	本授業は、実技・演習で構成される。発達段階に応じた運動あそびを目的・内容・方法論の観点から指導計画を作成した上で、保育者と園児役に分かれ実践し、ふり返り記録を作成する。この一連の流れを展開することで現場の指導につなげようとする。また、バレーボール・サッカーあそびを通して学生自身の健康の保持増進・体力の向上を養うこと・運動と向き合うための考え方を学ぶことを目的に授業展開する。 さらに、なわを使った運動あそびとリズム体操を融合させる課題では、なわの操作技能と身体の柔軟性を向上させるとともに、グループにおける隊形移動の手法を探究する。協働性を身に付ける。

【授業計画】	
前期	後期 1 サッカーあそび:インサイドキック、シュート 2 サッカーあそび:ドリブルとトラップ、ルールづくり、ミニゲーム 3 サッカーあそび:相手をかかわす、組み立てる、ボールをつなぐミニゲーム 4 サッカーあそび:実技試験 5 バレーボール:オーバーハンドパス(トス)サーブ、レシーブ 6 バレーボール:オーバーハンドパス(トス)からのアタック、ゲーム 7 バレーボール:アンダーハンドパス(トス)からのアタック、ゲーム 8 バレーボール:実技試験 9 身近な物を使った運動あそび:新聞紙・タオルなどを使ったあそびの探求 10 身近な物を使った運動あそび:あそびの創作と指導案作成 11 身近な物を使った運動あそび:模擬保育 12 身近な物を使った運動あそび:模擬保育とふり返り 13 なわとリズム体操:役割分担した課題への取組、リズム体操の習得 14 なわとリズム体操:なわ場面とリズム体操場面の融合 15 なわとリズム体操:構成および隊形移動の完成と細部の確認 定期試験

テキスト	「保育と幼児期の運動あそび」 岩崎洋子編 萌文書林
参考文献	「幼稚園教育要領」(平成29年度告示) 「保育所保育指針」(平成29年度告示) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年度告示)
授業時間外における学習方法	登下校における交通機関での移動・歩行中および近隣公園など日常生活のさまざまな場面で出会う乳幼児や、その保護者の様子をさりげなく観察することで、乳幼児の発達段階理解に役立てる。
成績評価の方法	サッカー・バレーボール実技試験(技能・意欲)、模擬保育における指導案作成とふり返りの記述内容、なわとリズム体操では、課題取り組みおよび実技試験(技能・意欲)に加え、日ごろの授業への取組む姿勢を総合的に評価する。
その他・注意事項	スポーツや運動あそびを行うので、伸縮性のある動きやすい体育着で授業を受けること。授業への欠席・遅刻は厳しく対処する。着替えを忘れた場合は見学。見学2回で欠席1回に換算する。

科 目 名	情報機器の操作	担当教員	白鳥 義明
実施学期	通年		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	パーソナルコンピュータを中心とした情報機器及び情報環境を理解して活用することができ、併せて教員・保育士として必要な情報リテラシーと操作技術を習得する。 【到達目標】 ・情報リテラシーを身につけ、情報の収集・評価・利用・表現について適切な方法を探ることができる。 ・Office系ソフトウェアを使って、図表付き文書の作成、データの整理・分析、プレゼンテーションができる。
授業の概要	・教員・保育士として必要とされる実践的な課題を挙げ、その解決に必要な知識と情報処理の方法について具体的かつ多角的な説明を行い、質疑応答の後、課題解決に向けた演習を行う。

【授業計画】	
前期	後期
1. ガイダンス 学内情報環境の確認／授業の進め方／利用するドライブ／タッチメソッド 2. 基本操作(1) タッチメソッド／図形によるイラストの作成(人物と遊具)／ファイル管理1 3. 基本操作(2) タッチメソッド／画面キャプチャとトリミング／ファイル管理2 4. コンピュータ活用の留意点 セキュリティ/情報発信とモラル/情報活用と他者の権利の尊重 5. 文書作成ソフトウェアの活用(1) 保護者向け文書の作成／構成要素と礼儀 6. 文書作成ソフトウェアの活用(2) 表組の利用(園だよりを例に)／文書の更新 7. 文書作成ソフトウェアの活用(3) 表組の利用(保育指導案を例に)／PDF化 8. 文書作成ソフトウェアの活用(4) 文章起案(状況報告型) 9. 文書作成ソフトウェアの活用(5) 文章起案(問題解決提案型) 10. プレゼンテーションソフトウェアの活用(1) 基本的な使い方／プレゼンテーションの基礎知識／スライドデザイン 11. プレゼンテーションソフトウェアの活用(2) グループ演習1:自己紹介「私の特技」(原案・アウトライン) 12. プレゼンテーションソフトウェアの活用(3) グループ演習2:自己紹介「私の特技」(スライド・ノート) 13. プレゼンテーションソフトウェアの活用(4) グループ演習3:自己紹介「私の特技」(発表と評価_前半) 14. プレゼンテーションソフトウェアの活用(5) グループ演習3:自己紹介「私の特技」(発表と評価_後半) 15. 前期授業のまとめ 定期試験	1. コンピュータ概論(1) ハードウェア、OS、ソフトウェアの関係／デジタルと2進数 2. コンピュータ概論(2) アナログのデジタル化(音楽CD作成の流れ／情報量と圧縮) 3. コンピュータ概論(3) 電子楽器から音が出る仕組み／楽器のピッチ(440Hzと442Hz) 4. コンピュータ概論(4) 演習:電子楽器での合奏を考える(吹奏楽／弦楽アンサンブル) 5. 表計算ソフトウェアの活用(1) 四則演算、集計関数、構成比計算(相対参照と絶対参照) 6. 表計算ソフトウェアの活用(2) 園児名簿の管理／関数によるさまざまな集計 7. 表計算ソフトウェアの活用(3) 園児名簿の管理／関数による検索／データの更新・削除 8. 表計算ソフトウェアの活用(4) データ分析の基礎1(基本統計量の取得／代表値と散布度) 9. 表計算ソフトウェアの活用(5) データ分析の基礎2(度数分布表とヒストグラム／標準偏差の意義) 10. 表計算ソフトウェアの活用(6) データ分析_課題 11. 表計算ソフトウェアの活用(7) VBAによる作業の自動化①／自動化演習① 12. 表計算ソフトウェアの活用(8) VBAによる作業の自動化2／自動化演習② 13. 表計算ソフトウェアの活用(9) 過去のデータからの将来予測(近似曲線や関数による予測式) 14. 表計算ソフトウェアの活用(10) 過去のデータからの将来予測(回帰分析ツールの利用) 15. 後期授業のまとめ 定期試験

テキスト	「ポイントでマスター 基礎からはじめる情報リテラシー (Office2021対応)」著:杉本くるみ、大澤栄子 実教出版
参考文献	「インターネット社会を生きるための情報倫理(改訂版)」情報教育学会・情報倫理教育研究グループ
授業時間外における学習方法	【事前学修】教科書やあらかじめ配布するプリント教材で、各回の学習事項に関する知識や処理手順を概観しておくこと。 【事後学修】授業内容を踏まえ、プリント教材やノートを読み直し、学習内容の理解と知識の定着を図ること。
成績評価の方法	授業参加の積極性(30%)、課題提出(30%)、定期試験(40%)の総合評価とする。
その他・注意事項	PC操作時には、手指消毒を心掛けてください。

科 目 名	英語コミュニケーション	担当教員	渡邊 毅
実施学期	通年		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	英語コミュニケーションの基礎を学び、国際化時代に保育者を目指すものとしての以下の能力を養う。 ①異文化を理解すると同時に、自国の文化を様々な国の人々に理解してもらうためのコミュニケーション能力。 ②保育園や幼稚園の生活・子どもの発達を英語で理解し、表現できる能力。		
授業の概要	①英語の発音、リズム、イントネーションに慣れる。 ②外国人のこどもや保護者と関わるときに必要な性の高い語句・表現を会話形式で学ぶ。 ③英語の歌・物語に親しむ。 ④オリジナルスキットや紙芝居を作成し、発表する。 ⑤時事的な事柄を英語で学ぶ。		

【授業計画】	
前期	後期
1 Unit 1 First Step Childcare English	1 Unit 9 Toilet Dialog
2 SELF-INTRODUCTION	2 THE PARENT-TEACHER COMMUNICATION NOTEBOOK
3 Unit 2 Welcome to Minato Nursery School!	3 Unit 10 Fighting
4 INTERVIEW YOUR PARTNER	4 FACE AND BODY
5 Unit 3 Time and Numbers	5 Unit 11 Injuries and Illnesses
6 NURSERY SCHOOL REQUIRED SUPPLIES	6 COMMON CHILDHOOD INJURIES, ILLNESS AND SYMPTOMS
7 Unit 4 Directions	7 Unit 12 Telephone Calls
8 A LETTER TO THE PARENTS	8 TELEPHONE MESSAGES
9 Unit 5 Davy Meets His Classmate Takashi	9 Unit 13 Field Trip
10 PLAYGROUND	10 ANNUAL SCHOOL CALENDAR
11 Unit 6 Dropping Davy Off and Picking Him Up	11 Unit 14 Baby Care
12 CLOTHING FOR ALL KINDS OF WEATHER	12 MOTHER AND CHILD HEALTH HANDBOOK
13 Unit 7 Jobs at Nursery School	13 Unit 15 Graduation Day
14 Unit 8 Lunchtime	14 NURSERY SCHOOL DIPLOMA
15 Review	15 Review
定期試験	定期試験

テキスト	「保育の英会話」 ”Childcare English” 赤松直子・久富陽子著 萌文書林 The World of Oscar Wilde (美誠社)
参考文献	特に無し
授業時間外における学習方法	【事前学修】テキストの予習。スキットの発表準備・練習をする。 【事後学修】授業の復習をし、授業の学習内容の定着を図る。
成績評価の方法	毎時間の授業への取り組み、小テスト、筆記試験、課題への取り組みなどにより、総合的に判断する。
その他・注意事項	覚える、考える、使うの三つの努力を重視して取り組む。

科 目 名	保育内容総論	担当教員	小川 貴代子
実施学期	前期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示される保育内容と保育内容の基本的な考え方について読み解きながら、幼児の自発的な活動を通しての総合的な指導の在り方の理解を深める。また、環境を通して行う保育の考え方や子ども理解を根拠とした保育展開について理解し、遊びや生活を通して指導する保育の構造を学ぶ。
授業の概要	保育の基準である「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づき、保育現場での実践事例、グループ協議などを通して保育内容や遊びを通じた総合的な指導のあり方、保育者のかかわりについて理解を深めていく。 子どもの生活全体を通して、養護と教育は一体的に展開することを理解し、保育の多様性について学ぶ。

【授業計画】	
前期	後期
1 オリエンテーション・保育者の専門性と保育内容	
2 保育の全体構造と保育内容	
3 保育内容の歴史的変遷	
4 子どもの発達と保育内容	
5 子どもと保育内容・子ども理解	
6 子どもの発達と児童文化① (発達の道すじにそったおもちゃの選び方)	
7 子どもの発達と児童文化②(絵本について)	
8 子どもの発達と児童文化③(部分実習にチャレンジ)	
9 領域「健康」と保育内容・領域「人間関係」と保育内容	
10 領域「環境」と保育内容・領域「言葉」と保育内容	
11 領域「表現」と保育内容・遊びによる総合的な保育	
12 特別な支援を必要とする子どもの保育	
13 保育の多様な展開と保育内容	
14 小学校との連携をふまえた保育	
15 まとめ	
定期試験	

テキスト	「演習 保育内容総論」 酒井幸子・守 巧 著 萌文書林 幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館(平成30年3月) 幼稚園教育要領(平成29年告示) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示) 保育所保育指針(平成29年告示)
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。
授業時間外における学習方法	【事前学修】 授業内容を踏まえ、事前にテキストや「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当箇所を読んでおくこと。 【事後学修】 授業内容を踏まえ、配布資料を読み直し、課題を行うこと。
成績評価の方法	定期試験(40%)、レポート・教材の提出(40%)、授業態度・発表(20%)
その他・注意事項	授業では聴くことだけではなく、演習での学生間の意見交換や考察し合う時間も大切な学びになりますので、積極的な姿勢で授業に参加し、学びを深めましょう。配布された資料は各自、保管・整理すること。(提出有)

科 目 名	乳児保育 I	担当教員	上藤 千香子 (実務経験有り)
実施学期	前期		
授業形態	講義	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	・乳児保育の意義と歴史の変遷について学び、乳児保育の重要性についての理解を深める。 ・保育所及び多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ・人格形成の基礎を築く乳児期の子どもの発達を学び必要なかわり方と配慮、環境について学ぶ。 ・乳児保育における職員間の連携・協働及び、保護者や地域の関係機関との連携について理解する。
授業の概要	・乳児保育の歴史を学び、乳児保育とは何か、その目的や内容を理解する。 ・乳児保育の現状や課題について理解する。 ・人格の基礎をつくる乳児期の発達とかかわり方を学び、乳児期の育児の重要性を理解し実践に繋げていけるようにする。 ・乳児保育における職員間の連携・協働及び保育計画の重要性を理解する。 ・保護者との共通理解の重要性及び、地域の関係機関との連携の必要性を理解する。

【授業計画】	
前期	
1 乳児保育の意義・乳児期とは	
2 乳児保育の歴史・子どもを取り巻く社会の変化	
3 子育て家庭に対する支援及び社会的状況と課題	
4 保育所における乳児保育	
5 保育所以外における乳児保育	
6 新生児から4か月頃までの発達及びかわり方と配慮	
7 4か月から8か月頃までの発達及びかわり方と配慮	
8 8か月から12か月頃までの発達及びかわり方と配慮	
9 1歳から2歳までの発達及びかわり方と配慮	
10 2歳から3歳までの発達及びかわり方と配慮	
11 3歳以上児の保育に移行する時期の保育	
12 乳児保育における指導計画	
13 職員間の連携・協働	
14 保護者との連携・協働/関係機関との連携・協働	
15 まとめ	
定期試験	

テキスト	続「発達がわかれば子どもが見える」田中真介監修/乳幼児保育研究会 ぎょうせい出版 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型 認定こども園教育・保育要領」
参考文献	「発達がわかれば子どもが見える」田中真介監修/乳幼児保育研究会 ぎょうせい出版 「子どもへのまなざし」佐々木正美 福音館書店 「子どもの発達と診断」①～③ 田中昌人・田中杉江 大月書店
授業時間外における学習方法	授業の振り返りとして、毎時間終了後に「授業の確認」を提出すること。 配布資料を参考に学習内容を復習しておくこと。
成績評価の方法	毎時間の提出物及び受講態度(40%)、定期試験(60%)の割合で、総合的に評価する。
その他・注意事項	主体的に授業に参加し、必要に応じてノートを取り理解を深める。 グループ討議などで自分の意見を述べ、他人の意見を聞く経験を積んでいく。
実務経験に関する事項	理論と具体的な実践を織り交ぜながら、乳児保育を理解できるような講義を展開する。担当教員は公立保育園の保育士及び園長、公立こども園園長としての実務経験があり、実務経験に基づく保育者養成を目指す。

科 目 名	乳児保育Ⅱ	担当教員	秋山 照呼 (実務経験有り)
実施学期	後期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	・3歳未満児の心身の発達を理解し、必要な援助を学ぶ。 ・3歳未満児の子どもの生活や遊び、保育の方法及び環境構成について理解を深める。 ・乳児期における指導計画の作成について具体的に理解する。
授業の概要	・3歳未満児の発達の特徴を理解し、一人一人に応じた適切な保育を行う力を身に付けていく。 ・発達にふさわしい教材を考え、製作したり、グループワークの中で保育の課題等を調べていき、考察を深め、発表したりして学び合う。

【授業計画】	
前期	後期
	1 授業の目的、内容、進め方を理解する。 乳児保育の基礎的な知識を再確認する 2 乳児保育の基本 ・子どもと保育者と関係性について 3 子どもの生活の流れ、保育環境、援助の実際(0歳児クラス) 4 子どもの生活の流れ、保育環境、援助の実際(1歳児クラス) 5 子どもの生活の流れ、保育環境、援助の実際(2歳児クラス) 6 乳児期の遊びと保育者の関わり方①「玩具」と保育環境 発達に合わせた「手作り玩具」の選定 7 「手作り玩具」の製作と発表に向けての準備 8 「手作り玩具」の作品の発表と振り返り 9 乳児期の遊びと保育者の関わり方② 「絵本、紙芝居、スケッチブックシアター」と保育環境 10 「スケッチブックシアター」の製作と発表に向けての準備 11 「スケッチブックシアター」の発表と振り返り 12 子どもの心身の健康、安全と情緒の安定を図るための配慮について 13 集団での生活における配慮について 環境の変化や移行に対する配慮について 14 乳児の保育の計画と記録(長期、短期、個別、集団) 全体的な授業の振り返り 15 まとめ 定期試験

テキスト	新基本保育シリーズ⑮「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」中央法規出版
参考文献	幼稚園教育要領（平成29年度告示） 保育所保育指針（平成29年度告示） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年度告示）
授業時間外における学習方法	[事前学修] テキストの該当ページに目を通しておく。 [事後学修] 授業内容を振り返り、復習を行う。
成績評価の方法	定期試験(60%) 授業態度・発表・課題提出(40%)により総合的に評価する。
その他・注意事項	学ぶ姿勢を強くもち、保育者になることを常に意識し、意欲的に授業に取り組む。
実務経験に関する事項	3歳未満児の保育における子どもの生活やあそびの特徴及び保育の方法や環境構成について具体的に理解を深める演習である。担当教員は公立保育園の園長として勤務した経験があり、多くの事例や保育実践に基づき授業を展開する。

科 目 名	子どもの健康と安全	担当教員	島崎 智子
実施学期	後期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】「子どもの保健」で学習する基礎知識やガイドラインを基に、保育現場における子どもの心身の健康状態の把握や養護に関する健康保持・増進のための専門職としての基本的知識と実践技術の習得を図る。また、基本的知識・ケア方法を基礎とし、発達障害のある子どもや緊急時の対応、保育環境の整備や集団に対する安全管理に関する知識と技術を学習する。 【到達目標】保育現場における専門職として、子どもの健康保持・増進と救急対応および安全確保のために必要な、実践的知識・技術・態度を習得することができる。
授業の概要	子どもの心身の健康保持・増進及び子どもの生命を守る安全確保は、保育者の専門的役割として重要な要素である。保育者には、リスクの高い子どもの集団生活に対する全体の健康と安全を考えるとともに、子ども一人ひとりの心身の状態や発達の過程を踏まえた対応が求められる。本授業では、子どもに対する日々のケアと応急処置の知識や技術を、グループワークおよび実技演習を通じて学び、子どもの生命を預かる保育者としての実践能力を養う。

【授業計画】	
前期	後期
1	1 オリエンテーション・保健的観点を踏まえた保育環境と援助 子どもの健康と保育の環境、子どもの養護の仕方 演習①
2	2 保育における健康と安全の管理 衛生管理、嘔吐物などの処理方法 演習②
3	3 事故防止と安全管理、災害への備え、危機管理 保育中の事故防止の取り組み 演習③
4	4 子どもの体調不良などへの対応 子どもと薬 体調不良や傷害が発生した場合の対応 演習④
5	5 子どもへの応急手当 怪我等への対応 適切な診断とその対応 演習⑤
6	6 一次救命措置 心肺蘇生法とAED 気道異物の除去方法 演習⑥
7	7 子どものかかりやすい感染症対策 感染症の予防と感染時の対応 演習⑦
8	8 保健における保健的対応 バイタルサイン、健康診断 保育における保健的対応の基本的な考え方 演習⑧
9	9 保育における保健的対応 3歳未満への対応 3歳未満児の特徴、沐浴指導、子どもの衣類 演習⑨
10	10 保健における保健的対応 3歳未満への対応 子どもの生活に対する援助 演習⑩
11	11 保健における保健的対応 3歳未満への対応 食物アレルギーの対応 演習⑪
12	12 保健における保健的対応 3歳未満への対応 アレルギー児の対応 演習⑫
13	13 障害のある子どもへの対応 発達障害 演習⑬
14	14 健康及び安全の管理の実施体制 家庭、専門機関、地域の関連機関との連携
15	15 まとめ
定期試験	定期試験
テキスト	「これだけはおさえて！保育者のための 子どもの健康と安全」 鈴木美枝子編著(改訂二版) 創成社
参考文献	適宜資料を配布する(配布資料を保管できる2穴バインダー等を各自用意すること)
授業時間外における学習方法	【事前学修】テキストの該当ページに目を通しておくこと。 【事後学修】配布資料、テキストを参考に、学習した内容を復習すること。
成績評価の方法	授業態度・質疑応答・発表内容・提出物、期末試験により、総合的に評価する。
その他・注意事項	積極的な授業態度やグループワークへの取り組み姿勢、活発な質問や意見発表による授業態度を重視する。

科 目 名	保育カリキュラム論	担当教員	東 智子
実施学期	後期		
授業形態	講義	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	1.保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。 2.教育課程の編成や全体的な計画と指導計画の作成について、その意義や具体的な方法について理解する。 3.子どもの理解に基づいて、計画、実践、省察、評価、改善の過程について、その全体構造を動的に捉え、理解する。
授業の概要	テキストや配布資料・幼稚園教育要領を中心に学習を進める。 さらに、実習した日誌を基に保育現場における環境や遊びから教育の意味を見つけ、最終的には、教育課程に沿った指導計画を自分で立案できるようになる。

【授業計画】	
前期	後期
	1 保育カリキュラム論とは何か ・教育課程とは ・ オリエンテーション 2 保育とは何か ・環境を通じた保育 ・ 望ましい保育とは 3 幼稚園教育要領の性格と位置づけ ・教育要領における5つの領域 ・ 幼児期の終わりまで育ってほしい姿 4 どのような保育が求められているか ・子ども理解と保育者の役割 5 遊びと総合的指導 ・遊びの本質 ・ 遊びを通しての総合的指導とは 6 保育の評価 ・保育における評価とは ・ 子どもの内面的理解 7 教育課程の編成と基本原理 ・教育課程の必要性 ・ カリキュラム・マネジメントの必要性 8 「教育課程」・「全体的な計画」から「指導計画」へ ・指導計画の必要性 ・ 長期の指導計画 ・ 短期の指導計画 9 指導計画の作成の基本とその方法 ・指導計画の作成手順 ・ 指導計画の作成方法 ・ 日案の書き方 10 0歳児の指導計画 ・乳児の発達の特徴と配慮 ・ 指導計画の作成と改善 11 1歳以上3歳未満児の指導計画 ・1歳以上3歳未満児の特徴と配慮 ・ 指導計画の作成と改善 12 3・4・5歳児の指導計画 ・3～5歳児の特徴と配慮 ・ 指導計画の実際と展開の理解 13 指導案作成1 ・幼稚園の指導計画を作成する 14 指導案作成2 ・保育園の指導計画を作成する 15 まとめ 定期試験
テキスト	新・基本保育シリーズ⑬「教育・保育カリキュラム論」(中央法規出版) 2019年2月発行
参考文献	幼稚園教育要領 (平成29年度告示) 保育所保育指針 (平成29年度告示) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年度告示)
授業時間外における学習方法	テキストの該当箇所を事前によく読んで受講すること。受講後もテキスト、ノート、配布資料を中心に復習し、子ども理解と教育課程や指導計画との関連を認識しながら、更に理解を深めること。
成績評価の方法	授業の参加態度(10%)、課題の提出及び内容(30%)、定期試験(60%)により、総合的に評価する。
その他・注意事項	保育者になることを常に意識して講義に臨むこと。

科 目 名	特別支援保育	担当教員	大井 靖
実施学期	通年		(実務経験有り)
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	特別の支援を必要とする子どもの障害の状態や心身の発達を理解し、インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の理念や仕組みを理解する。そして、その子どもに対する教育課程や支援の方法を学ぶ。特に、個別の指導計画と個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解する。さらに、特別の教育的ニーズのある子どもの学習上または生活上の困難とその対応を理解する。
授業の概要	発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする子どもに対する支援の方法を具体的に学び、その方法を例示する。また、「自立活動」の内容を理解し、障害に応じた支援の在り方を学ぶ。そして、特別支援教育の教育課程を踏まえ、個別指導計画と個別の教育支援計画の実践を学ぶ。さらに、関係機関・家庭と連携し、特別支援教育コーディネーターと協力して支援体制を構築する必要性を理解する。 障害はないが、特別な教育的ニーズのある子どもについても、学習上または生活上の困難を理解し、その対応を学ぶ。

【授業計画】	
前期	後期
1 インクルーシブ教育と特別支援教育	16 障害のある子どもの教育課程と「自立活動」
2 特別支援教育とは。その対象、ねらい、内容	17 基本的生活習慣の確立と社会的ルールの獲得
3 特別支援教育の制度、理念、仕組み。歴史的変遷	18 発達を促す生活や遊び。健康安全
4 視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱の障害の理解と指導	19 ことばの発達と指導
5 知的障害(知的発達障害)の理解と指導	20 「個別の指導計画」の作成・活用
6 発達障害や軽度知的障害や言語障害の理解と指導	21 「個別の教育支援計画」の作成・活用
7 アセスメント(発達検査)と発達の遅れ	22 関係機関・保護者等との連携。保育者間の交流
8 早期発見早期治療と検診	23 特別支援教育コーディネーター・園内委員会等の園内協力体制
9 自閉症スペクトラム障害の理解と指導	24 支援体制の構築と支援会議。障害児支援の制度
10 注意欠陥・多動性障害の理解と指導	25 本人・保護者の多様なニーズに対応する地域支援(福祉・医療等も)
11 感覚と運動の発達	26 保護者の障害受容と保護者への配慮・支援
12 重症心身障害・医療的ケアの理解と援助	27 障害はないが特別の支援が必要な子どもの理解と指導
13 就学相談の仕組みと小学校への引継	28 母国語や貧困の問題等による特別の教育的ニーズへの対応
14 職員間の協働	29 インクルーシブ教育を推進する特別支援教育の今後のあり方
15 まとめ	30 まとめ
定期試験	定期試験

テキスト	特になし
参考文献	幼稚園・保育園における手引書「個別の教育支援計画」の作成活用 渡邊健治・丹羽登・天野珠路 ジアース教育新社 「自閉症のすべてがわかる本」 佐々木正美 講談社 「ことばの遅れのすべてがわかる本」 中川信子 講談社 「AD/HDのすべてがわかる本」 市川宏伸 講談社
授業時間外における学習方法	授業の復習で小テスト対策。
成績評価の方法	定期試験(60%)、小テスト(40%)により、総合的に評価する。
その他・注意事項	特になし。
実務経験に関する事項	特別の支援を必要とする子どもに対する支援の方法を具体的に学び、支援の在り方について理解する。担当教員は、東京都立養護学校の教員及び特別支援学校の校長としての経験があり、その実務経験に基づいた授業を展開する。

科 目 名	教育原理	担当教員	平野 朝久
実施学期	前期		
授業形態	講義	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	「教育とは何か」ということを常に念頭に置き、日本、諸外国の教育理論、教育史、教育制度などを通して、教育の本質や原理を理解し、社会に役立つ有能な教員、保育者のなろうとする意欲を培う。 ①「教育とは何か」を理解している。 ②日本及び諸外国の教育史を理解している。 ③日本の公教育について理解している。 ④社会に役立つ教員、保育者になろうとする意欲をもっている。		
授業の概要	・教育の意義、思想、歴史、制度、経営、教育課程・方法、社会教育等についてそれぞれの基礎的な内容を講義する。 ・できるだけ具体的な例を挙げて理解しやすくする。 ・常に考え、問題意識を持って、主体的に取り組み、アクティブ・ラーニングになるようにする。		

【授業計画】	
前期	後期
1 教育の意義Ⅰ （教育の定義、教育の目的、乳幼児期の教育の特性） 2 教育の意義Ⅱ （教育の種類と内容、教育と子供、家庭福祉の関連性） 3 教育思想の歴史的変遷Ⅰ（古代ギリシャからルネサンス・リアリズム） 4 教育思想の歴史的変遷Ⅱ（近代教育思想の成立と発展） 5 日本の教育の変遷（律令国家の教育～江戸時代の教育） 6 日本の近代公教育（学制発布～教育基本法の成立） 7 教育の制度（日本の学校制度） 8 諸外国の教育制度 9 学校の経営（学校経営、学級経営など） 10 教育課程Ⅰ（教育課程の概要と国の基準） 11 教育課程Ⅱ（教育課程の実際） 12 教育の方法（学習指導、生活指導、教育評価等） 13 社会、家庭、学校の繋がり （家庭と教育、社会と教育、学校と社会など） 14 教育課程と教師の役割（教師に求められるものなど） 15 まとめ（前期のまとめ） 定期試験	

テキスト	「はじめに子どもありきー教育実践の基本ー」 平野朝久 東洋館出版社 2017年
参考文献	「幼稚園教育要領」(平成29年告示) 授業中に適宜資料を配付する。
授業時間外における学習方法	【事前学修】次回の学習内容について予習する。 【事後学修】授業で学習した内容を資料やテキストを使って再確認する。
成績評価の方法	定期試験(60%)と毎回提出する小レポート(40%)により、総合的に評価する。
その他・注意事項	授業には意欲的、積極的に参加し、常に自分で考えながら受講するようにする。

科 目 名	保育者論	担当教員	高橋順子 (実務経験有り)
実施学期	後期		
授業形態	講義	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】保育者の制度的な位置づけ及び「職務と責任」を理解し、子ども中心主義の保育者のあり方について学ぶ。 【到達目標】「保育者の専門性とは何か」と自ら問いながら、保育者としてのキャリアの始まりと自覚し、知識・技能を身に付ける。
授業の概要	保育者の制度的な位置づけなどの外的環境と保育者としての内面の両面から、「保育者の専門性とは何か」を考える。

【授業計画】	
前期	後期
	1 保育者とは(保育者の役割・職務内容と倫理) 2 保育者の制度的位置づけ(保育者の免許・資格) 3 幼稚園教諭の仕事と役割(教員の服務) 4 保育士の仕事と役割(養護と教育の一体的展開) 5 保育者の専門性 ①子どもの内面や発達を理解する 6 保育者の専門性 ②遊びを援助する 7 保育者の専門性 ③個と集団を生かす保育の組み立てを考える 8 保育者の専門性 ④家庭や地域の連携と保護者に対する支援を創る 9 保育者の専門性 ⑤多様な子どもの理解と支援をする 10 保育者の専門性 ⑥教材研究を通して学ぶ 11 保育者の専門性 ⑦保育の計画・実践・振り返り 1回目 12 保育者の専門性 ⑧保育の計画・実践・振り返り 2回目 13 保育者の協働・関係諸機関との連携及び組織的に諸課題に対応する重要性 14 保育者の資質向上とキャリア形成 15 まとめ 定期試験

テキスト	「保育者論 (アクティバート保育学2)」(ミネルヴァ書房)
参考文献	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
授業時間外における学習方法	【事前学修】次週の学習内容についてテキストを読み、必要な資料や教材を準備する。 【事後学修】授業で学んだことをファイルし、保育現場で役立つ資料作りをする。
成績評価の方法	定期試験(60%)、授業参加意欲・態度・課題提出(40%)により、総合的に評価する。
その他・注意事項	学生同士及び教員とともに、主体的・対話的に積極的に授業に参加することで、保育者の同僚性を体験しながら学ぶ。
実務経験に関する事項	担当教員は都内公立幼稚園園長の経験があり、子どもの具体的な姿を基に保育者の役割について考える授業を展開する。

科 目 名	教育経営	担当教員	高橋武郎
実施学期	後期		
授業形態	講義	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	教育経営の意義を理解し、我が国の教育制度の成立と発展について学び、近代化・民主化の流れを知るとともに、これからの教育を展望する。また、教育行政及び関係諸法規を学び、理解と関心を深める。具体的な学校経営、学級経営を考え、自分のビジョンを確立する。また、現代の教育課題を学び、経営を考える。
授業の概要	教育経営の意義を理解した後は、様々な場面を設定し、グループ討議も交えながら一人一人がしっかりと考えられるような授業を行う。

【授業計画】	
前期	後期 1 教育経営の意義 2 我が国の教育制度の成立とその歩み 3 教育基本法Ⅰ（前教育基本法の成立と意義） 4 教育基本法Ⅱ（改正教育基本法の成立と意義） 5 教育基本法Ⅲ（実現のために① 法に基づく文教政策） 6 教育基本法Ⅳ（実現のために② 生きる力と教育課題） 7 学校教育法と同施行規則 （学校の目的と目標、幼・小・中・高の関連） 8 学校における保健衛生管理及び安全管理 （安全管理に関わるいろいろな法律） 9 子供の心を読み解く（メンタリズムの活用） 10 教育行政の組織及び運営 11 学校経営（経営ビジョン） 12 学級経営Ⅰ（学級経営の構想①－親とのかかわり） 13 学級経営Ⅱ（学級経営の構想②－地域とのかかわり） 14 学級経営Ⅲ（学級経営の構想③－子供とのかかわり） 15 まとめ（後期のまとめ） 定期試験

テキスト	毎時間、資料を配布する。
参考文献	「最新保育小六法・資料集 2024」 大豆生田啓友・三谷大紀編集 ミネルヴァ書房 「幼稚園教育要領」（平成29年告示）
授業時間外における学習方法	次週の学修内容について予習する。
成績評価の方法	定期試験（70%）、提出物（30%）に基づき総合的に判断する。
その他・注意事項	グループでの意見交流も含め、積極的に授業に参加すること。また、疑問等があれば積極的に質問し、学びを深めること。

科 目 名	保育原理	担当教員	上藤 千香子 (実務経験有り)
実施学期	後期		
授業形態	講義	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	保育とは何か、保育の目的、内容、方法、保育に関する法令、制度、歴史的変遷と現状等の基本的な事柄の学びを通して、保育の意義や本質を理解する。その上で学生が将来どのような保育者になりたいか、どんな保育を実践していきたいか、といった自己の保育観を構築するための基礎ができることを目標とする。
授業の概要	基本的な理論の理解と実践的な理論の理解の統合を図るため、可能な限り現場のエピソード、事例、資料等を用い、具体的な視点から保育の原理を学び、保育とはどうあるべきかを考えていく。その中で、子どもの発達とそれを保障する保育援助、家庭支援ができるような実践的知見等が育つように授業を展開する。

【授業計画】	
前期	後期
	1 保育の方向性と保育実践の基礎となる発達観 2 保育に関する諸法令などからみる保育の原理 3 保育所保育指針・幼稚園教育要領等に見る保育の原理 4 養護の教育の一体化について 5 乳児保育・1歳以上3歳未満児の保育内容とその基本構造 6 保育内容のもつ基本的な特質(共同性・総合性・計画性) 7 多様な保育内容とその方法 8 子育て支援について学ぶ 9 西洋と日本の保育の創成期 10 西洋の保育実践の発展過程 11 日本の保育実践の発達過程 12 児童中心主義の保育を探る 13 保育者の在り方を考える 14 これからの保育に向けて 15 全体のまとめ 定期試験

テキスト	改訂2版「Workで学ぶ保育原理」金瑛珠企画・編 わかば社 2023年改訂版
参考文献	「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館 2018年 「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベル観 2018年 「最新保育小六法・資料集 2025」ミネルヴァ書房 2025年
授業時間外における学習方法	【事前学修】次回授業に関する内容について、テキスト・その他で調べておく。 【事後学修】学んだ内容を再確認しておく。
成績評価の方法	定期試験(70%)、振り返り、ワーク提出(30%)、授業への参加態度により、総合的に評価する。
その他・注意事項	細かな記述や数値を覚えることより、保育を広い視点で捉えるようにする。
実務経験に関する事項	保育に関する基本的な内容を理解する講義形式であるが、学生が自己の保育観を構築するために具体的な保育者の姿についても取り上げる。担当教員は、公立保育園の保育士及び園長、公立こども園の園長として勤務しており、豊富な事例を紹介する。

科 目 名	子ども家庭福祉	担当教員	大沢 博 (実務経験有り)
実施学期	前期		
授業形態	講義	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	現代社会における子ども家庭福祉の意義を明確にして、歴史的変遷について理解し、子ども家庭福祉の制度、施策、実施体制等についての知識を身につける。子ども家庭福祉の現状、動向についても常に留意し、課題や今後の展望についても理解する。 子どもの権利、人権擁護についても理解を深める。
授業の概要	授業計画に基づき展開し、随時子ども家庭福祉に関する事例や新聞報道された内容等を取り上げ、問題が発生する様々な要因を多角的に考察し、社会的な問題意識が持てるよう工夫した授業を行う。

【授業計画】	
前期	後期
1 子ども家庭福祉の理念と歴史	
2 現代社会と子ども家庭福祉	
3 子ども家庭福祉と保育	
4 児童の権利擁護	
5 子ども家庭福祉の制度と法体系	
6 子ども家庭福祉の実施機関	
7 子ども家庭福祉の施設	
8 子ども家庭福祉の専門職	
9 少子化と子育て支援サービス	
10 多様な保育ニーズへの対応	
11 児童虐待・DV	
12 社会的養護	
13 障害児、少年非行への対応	
14 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応	
15 連携・協働とネットワーク	
定期試験	

テキスト	「子ども家庭福祉の制度と支援」坂本健編著 大学図書出版
参考文献	「最新保育小六法・資料集2024」(ミネルヴァ書房) 「社会福祉の手引き2019」 東京都編集 授業中に適宜資料を配布する。
授業時間外における学習方法	次週の項目について予習をする。
成績評価の方法	試験、授業態度、提出レポートにより、総合的に評価する。
その他・注意事項	授業に意欲的に参加し、疑問等があれば積極的に質問すること。
実務経験に関する事項	内容から知識・理解を必要とする講義形式であるが、現状や動向についての具体的事例を随所に取り入れている。担当教員は東京都立の児童自立支援施設の専門員、知的障害者更生施設の生活指導員等の実務経験をもとに豊富な事例を紹介し、学生の問題意識を持たせている。

科 目 名	社会福祉	担当教員	高橋 武郎
実施学期	前期		
授業形態	講義	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	現代社会における社会福祉の意義を明確化して、歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭福祉の視点について理解し、社会福祉の制度、実施体系等について理解する。 社会福祉における相談援助、利用者の保護に関わる仕組みについて理解を深め、社会福祉の動向と課題についての知識を身に付ける。
授業の概要	制度としての社会福祉の仕組みについて、様々な問題を取り上げ基礎的な理解を深めていく。 社会福祉のニーズに対応する知識を習得し、子ども、障害者、高齢者等の利用者を支援援助して人々の幸福を追求しているようにする。

【授業計画】	
前期	後期
1 社会福祉の理念と概念 2 社会福祉の歴史的変遷 3 子ども家庭支援と社会福祉 4 社会福祉の制度と法体系 5 社会福祉行財政と実施機関 6 社会福祉の専門職 7 社会保障及び関連制度の概要 8 社会福祉における相談援助の理論 9 相談援助の意義と機能 10 相談援助の対象と過程 11 相談援助の方法と技術 12 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み 13 少子高齢化社会における子育て支援 14 共生社会の実現と障害者施策 15 在宅福祉・地域福祉の推進 定期試験	

テキスト	毎時間、資料を配布する。
参考文献	「最新保育小六法・資料集 2025」 大豆生田啓友・三谷大紀編集 ミネルヴァ書房
授業時間外における学習方法	次週の学習内容について予習する。
成績評価の方法	定期試験(70%)、提出物の内容(30%)に基づき、総合的に判断する。
その他・注意事項	積極的にグループワークに参加すること。また、疑問等があれば積極的に質問し、学びを深めること。

科 目 名	社会的養護 I	担当教員	渡井 隆行
実施学期	後期		
授業形態	講義	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	本科目では、保育士として社会的養護を必要とせざるを得ない家庭・児童・若者と携わるようになるために以下の3項目について学ぶ。 1. 社会的養護について理解し、現状から課題を見つけ、解決に至る方法を考えられるようになる。 2. 社会的養護を必要とせざるを得ない家庭・児童・若者に携わる為の意識や知識、技術を獲得する。 3. 保育士としての自覚を持てるように、自己理解を深める。		
授業の概要	子ども家庭庁等の資料、社会的養護に関する映像、実際に現場で働いている職員や社会的養護を経験した当事者の発表等を用いながら学習を進める。また、子どもに関わる職業に就くための意識、知識、技能つながるような個人ワークやグループワーク等を多く含んだ授業にする。また、自己理解を、自己感知、自己受容につながるワークにも取り組み、保育士以外の業種からも求められる人材を目指す。		

【授業計画】	
前期	後期
1	1 社会的養護の理念と概念
2	2 社会的養護の歴史的変遷
3	3 子どもの人権擁護と社会的養護
4	4 社会的養護の基本原則
5	5 社会的養護における保育士等の倫理と責務
6	6 社会的養護の制度と法体系
7	7 社会的養護の仕組みと実施体系
8	8 社会的養護とファミリーソーシャルワーク
9	9 社会的養護の対象と関わり方
10	10 家庭養護と施設養護
11	11 社会的養護に関わる専門職
12	12 社会的養護に関する社会的状況
13	13 施設等の運営管理の現状と課題
14	14 社会的養護と地域福祉の現状と課題
15	15 まとめ
定期試験	定期試験
テキスト	特になし
参考文献	特になし
授業時間外における学習方法	日常の変化を意識し、それを他者と共有することを心掛ける。 自身の言動がどのような理由・感情・思いで出た言動なのかを振り返り、理解する。 調理、洗濯、掃除等を日々行い、自身の力で生活を成り立たせてみる。
成績評価の方法	課題提出(40%)、受講態度(40%)、定期試験(10%)で総合的に評価をする。
その他・注意事項	誰のために保育士になるのか？何のために保育士になるのか？ 保育士になって達成したいことは何か？を考える。

科 目 名	発達心理学 I	担当教員	安西 豪行
実施学期	前期		
授業形態	講義	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	保育者にとって必要な「人間の発達」および「人間の学習」についての基礎的な概念を学ぶ。生涯発達を視野に入れながら、主として乳幼児期の平均的な発達の特徴について理解する。同時に、発達を前提とした学習に関する諸原理を理解する。これらのことの概要を知り、発達の視点から子どもを理解し、幼児期に相応しい学習行動を促すための適切な対応姿勢のあり方を考えられるようになることを目標とする。		
授業の概要	発達及びそれに関する基礎概念(発達要因・発達段階・生涯発達等)を学習的な要素も含めた授業内容とする。最後に、発達・学習を相互に関連づけた全体的なまとめを行う。 授業形態は講義であるが、学生主体の方式を随時取り入れる。		

【授業計画】	
前期 1 発達観、こども観と保育観 2 子どもの発達と環境 3 社会情動的スキルと保育 4 感情の発達 5 自己の発達 6 身体的機能と運動機能の発達 7 知覚と認知の発達 8 言葉と社会性の発達 9 人との関わりと子どもの発達 10 思いやりの心と道徳観の発達 11 学びの理論と乳幼児期の育ち 12 幼児期の生活と小学校へのつながり 13 生涯発達と各時期の特徴 14 生涯発達と子育て支援 15 人間の発達と学習の関連性(全体的なまとめ) 定期試験	後期

テキスト	「保育の心理学」 長谷部比呂美 他編著 ななみ書房
参考文献	「幼稚園教育要領解説」 文部科学省 フレーベル館 2018年 「保育所保育指針解説」 厚生労働省 フレーベル館 2018年
授業時間外における学習方法	授業の前後にテキストをよく読んでおく。 毎時間終了時に「授業の確認」を提出する。
成績評価の方法	定期試験、「授業の確認」などにより、総合的に評価する。
その他・注意事項	「覚える」よりも「考える」を重視する。

科 目 名	子どもの保健	担当教員	島崎 智子
実施学期	前期		
授業形態	講義	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】子どもと家族の健康、成長・発達、解剖生理、日常生活活動といった小児領域における基礎知識を中心に学ぶ。さらに、子どものかかりやすい病気や症状についてなど、子どもの健やかな成長を育むための知識を深める。 【到達目標】子どもと関わる専門職として、必要な小児保健・精神保健の知識を取得し、保育現場における子どもの身体的・精神的・社会的健康の保持・増進および病気・症状や健康問題に対する適切な対応を理解することができる。
授業の概要	近年、慢性疾患や障害を抱えた子どもの保育の必要性も増え、子ども一人ひとりの心身の状態や発達の過程を踏まえた保健的な対応が求められている。 子どもの身体的・精神的・社会的な健康の総合的観点から、子どもの健康の保持・増進について学び、保育者として保健活動を実践するための基礎的な知識・能力の向上を目指す。また保育士養成課程の見直しに合わせて、保育士としての業務を行う上で重要である保護者や地域との関わりや、現代社会における子どもを取り巻く環境・状況についても概観する。

【授業計画】	
前期	後期
1 オリエンテーション 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的	
2 健康の概念と健康指標 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	
3 地域における保健活動と子ども虐待防止	
4 子どもの身体的発育・発達と保健：わたしたちの身体	
5 子どもの身体的発育・発達と保健：子どもの身体発育	
6 子どもの身体的発育・発達と保健：運動機能の発達	
7 子どもの身体的発育・発達と保健：生理機能の発達と保健	
8 子どもの心身の健康状態とその把握： 健康状態の観察・保護者との情報共有	
9 子どもの心身の健康状態とその把握：発育・発達の把握と健康診断	
10 子どもの心身の健康状態とその把握：心身の不調等の早期発見	
11 子どもの病気の予防及び適切な対応：感染症	
12 子どもの疾病の予防及び適切な対応： 感染症の予防と対応	
13 子どもの疾病の予防及び適切な対応：アレルギー疾患	
14 子どもの疾病の予防と適切な対応、その他の病気	
15 まとめ	
定期試験	

テキスト	「これだけはおさえて！ 保育者のための 子どもの保健」[改訂版] 鈴木美枝子 編著 創成社
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。
授業時間外における学習方法	【事前学修】シラバスに記載されている教科書の該当ページを読むこと。 【事後学修】配布資料の「まとめ」の部分を参考に学習した内容を復習すること。ワークシートを復習すること。
成績評価の方法	授業への参加状況・授業態度、提出物・ワークシート、試験により、総合的に評価する。
その他・注意事項	注意事項に関しては、初回、授業のオリエンテーションで説明する。 バインダーなどを各自で用意し、配布資料をきちんと保管すること。

科 目 名	子どもの食と栄養	担当教員	加藤 和子
実施学期	通年		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	1.子どもの発達段階における栄養や食生活の特性・重要性を認識し評価ができる。 2.保育者として、日々の食べ物の摂取について、栄養の役割と重要性が理解できる。 3.食に関する援助や支援を子どもや保護者にも行うことができる。 4.食育の基本を知り、現場における食育指導へと発展できる。
授業の概要	子どもの発達段階における栄養や食生活の特性・重要性を認識し、心身の順調な発育・発達を促し、健康な生活を営むために、日々の食べ物の摂取について、保育との関連の中で保育者として対応できる栄養の基礎について学ぶ。また、子どもの食生活を学びながら、保育者自身の望ましい食生活についても習得し、保護者への支援もできるように講述する。生活や地域社会の関係や環境を含む現代社会の食に関わる問題や、食の文化などとの関わりより、食育の基本を知り、現場における味覚を育てるなどの具体的な食育指導方法を学ぶ。

【授業計画】	
前期	後期
1 子どもの栄養と食生活の意義(テキストp.1～)	1 オリエンテーション
2 発育発達の基本的理解(テキストp.5～)	2 妊娠・授乳期の心身の特徴と食生活(テキストp.69～)
3 栄養と食事に関する基礎知識(テキストp.31～)	3 妊娠・授乳期栄養(実習)
4 栄養素とその機能(テキストp.31～)	4 乳児期の心身の特徴と食生活(テキストp.78～)
5 栄養素の消化・吸収・代謝(テキストp.37～)	5 乳児期栄養(実習)調乳
6 食事摂取基準(テキストp.41～)	6 離乳の意義(テキストp.94～)
7 献立作成と調理の基本(テキストp.63～)	7 乳児期栄養(実習)離乳食(5～8か月頃)
8 食事調査・栄養計算・食事診断(テキストp.63～)	8 乳児期栄養(実習)離乳食(9～18か月頃)
9 学童期・思春期の栄養と食生活(テキストp.136～)	9 幼児期の心身の特徴と食生活(テキストp.111～)
10 病気の時の栄養と食生活(テキストp.161～)	10 幼児期の特徴と間食の意義(実習)
11 障害をもつ子どもの食事と食生活(テキストp.184～)	11 行事食・郷土料理を取り入れた調理保育の実践(実習)-1
12 児童福祉施設の栄養と食生活(テキストp.213～)	12 行事食・郷土料理を取り入れた調理保育の実践(実習)-2
13 栄養教育・食育(テキストp.235～)	13 行事食・郷土料理を取り入れた調理保育の実践(実習)-3
14 総合的まとめ-1	14 総合的まとめ-1
15 総合的まとめ-2	15 総合的まとめ-2
定期試験	定期試験

テキスト	「子どもの食と栄養 健康と食べることの基本 第5版」 医歯薬出版 「ビジュアル食品成分表 ー食品解説つき 八訂準拠」 大修館書店
参考文献	特になし。
授業時間外における学習方法	【事前学修】テキストを読んでおくなど、次の授業の準備をする。 【事後学修】授業で学んだことをまとめる。また、日々の生活の中で食に関する情報に興味関心を持つ。
成績評価の方法	定期試験(80%)、毎回の授業における提出課題や確認小テスト(20%)により、総合的に評価する。
その他・注意事項	実習時には、三角巾・エプロン・ハンドタオル・上履き・下履き入れを必ず用意すること。

科 目 名	子ども理解の理論と方法	担当教員	辻 杉子 (実務経験有り)
実施学期	後期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	子ども理解は、乳幼児期のあらゆる営みの基本となるものである。そのため一人一人の子どもの生活及び遊びの実態に即して子どもの内面を理解し、多様な受け止めができるようにする。 ・子ども理解についての知識や方法を身に付け、考え方及び基礎的態度を理解する。 ・子どもの発達する姿と個と集団の育ち合いを理解する。 ・子ども理解の目的に応じて、記録の取り方を工夫できるようにする。 ・保護者対応や職員・地域・専門機関等との連携の意義について理解する。
授業の概要	子ども理解に必要な子どもの発達や学びを捉える視点を理解した上で、具体的な事例を基に、子どもの行動の背景や要因などの内面や基本的な対応について、協議や発表の場をつくり、理解を深められるようにする。さらに保護者対応の方法や園内外の協力体制のあり方についても、具体的に学べるようにする。

【授業計画】	
前期	後期
	1 保育の基本と子ども理解 2 環境を通しての教育と子ども理解 3 子どもにとっての園生活（個と集団とは） 4 求められる保育者の専門性（保育者に求められる姿勢） 5 子どもの発達や学びの姿を捉える（発達の特性とは） 6 子ども理解の方法（5つの方法を探る） 7 観察、記録の方法を分析・考察する（具体的な実践事例を通して） 8 観察、記録の方法を分析・考察する（保育者の専門性を活かして） 9 事例から記録を作成する 10 子ども理解にもとづく保育者の援助(事例研究グループワーク) 11 子ども理解にもとづく保育者の援助(事例研究グループワーク発表) 12 学びのつながりと評価について （5領域と10の姿からの学びのつながり） 13 学びのつながりと評価について （5領域と10の姿からの評価） 14 保護者支援 （カウンセリングの基礎的な姿勢と家庭支援の方法を学ぶ） 15まとめ 定期試験

テキスト	幼稚園教育要領（平成29年告示） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示） 保育所保育指針（平成29年告示）
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。
授業時間外における学習方法	授業の内容を振り返り、学習内容の定着を図る。
成績評価の方法	定期試験（70％） 授業態度や提出物（30％）
その他・注意事項	積極的な授業態度、活発な意見交換・発表を重視する。
実務経験に関する事項	子どもの言葉や行動にはいろいろな意味があるという保育の基本を、様々な事例を通して学んでいく。担当教員は公立幼稚園の教諭及び園長としての経験があり、多くの事例から子どもに心を寄せる姿勢や個と集団の関係について理解を深める授業を展開する。

科 目 名	教育実習指導	担当教員	中村香津美・高橋順子
実施学期	前期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	・教育実習の意義・目的・実習生としての心構えを理解する。 ・幼児理解のための観察の視点と方法・教材研究・環境設定・指導案作成・記録の取り方など、教育実習に必要な知識・技能・態度を総合的に習得する。 ・記録の取り方・記入内容を習得する。・指導案の書き方を理解し、作成できる。 ・実習後、振り返りにより幼稚園教諭をめざすための自己課題を明確にする。
授業の概要	・教育実習に望むための基礎的事項。「意義・ねらい」から「実践・反省・今後の課題」までを理解し学ぶ。 ・見学実習の観察の視点、オリエンテーションの受け方、日誌の記録の方法、指導案の書き方、模擬保育を通じての実践演習など、必要事項を個人・グループワーク・一斉授業などの形態で学ぶ。

【授業計画】	
前期	後期
1.教育実習の意義・目的(Ⅰ章)	1.幼稚園の一日の流れと実習生の活動(ビデオ)
2.教育実習の内容・時期・流れ・履修単位について(Ⅰ章)	2.日誌記録の記入方法 (Ⅲ章-1 オリエンテーションの内容 実習園の概要など)
3.実習に臨むにあたっての心構え(Ⅰ章)	3.日誌記録の記入方法(Ⅲ章-2 予定表の記入)
4.教育実習の具体的な内容(Ⅱ章)	4.観察したことの文章化(書式に沿った書き方と注意点)
5.幼稚園教員に求められる話し方(あいさつ・敬語・電話)	5.観察したことの文章化(実習のねらいに沿った書き方)
6.幼稚園教員に求められる文章表現(文章の書き方・漢字)	6.部分実習指導案の書き方
7.幼稚園見学実習の目的・内容・留意点(Ⅱ章・Ⅴ章)	7.部分実習指導案の作成
8.見学実習の視点①(幼児の発達)	8.幼児の発達に合った絵本の選び方
9.見学実習の視点②(教師の働きかけ)	9.生活の歌・季節の歌
10.見学実習の視点③(環境構成)	10.模擬保育の演習①(絵本の読み聞かせ・紙芝居)
11.幼稚園見学実習のまとめ	11.模擬保育の演習②(手遊び・音楽)
12.見学実習の振り返りと今後の課題	12.模擬保育の演習③(身体表現・運動あそび・ゲーム)
13.教育実習への準備①(書類の作成)	13.教育実習の自己評価 反省
14.教育実習への準備②(オリエンテーションの受け方)	14.幼稚園教員をめざす上での今後の課題
15.まとめ	15.まとめ

テキスト	「教育実習の手引き」 竹早教員保育士養成所 DVD「教育実習生の日」
参考文献	「実習ワーク」 朋文書林 「実習日誌の書き方」 朋文書林
授業時間外における学習方法	教材作成。 絵本や紙芝居などの教材を探し、演じることができるよう練習する。
成績評価の方法	授業態度、課題の提出の状況などにより、総合的に評価する。
その他・注意事項	規定の授業時数を受講しなければ教育実習には参加できない。

科 目 名	教育実習	担当教員	1年担任
実施学期	後期		
授業形態	実習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	幼稚園の実習を具体的に体験することにより、幼児の心身の発達・幼稚園における教育のあり方を理解し幼稚園教諭としての自覚を深める。幼稚園教育要領に定められた幼稚園の教育内容を実際に体験し、理解する。幼児と接し、活動や心身の発達状況等幼児理解を深める。幼児への場に応じた言葉かけなどの対応の仕方を学ぶ。幼稚園教諭の職務内容を理解し、幼稚園教諭をめざすための自己課題を明確にすることができる。		
授業の概要	現場で経験を積むことにより、幼稚園の在り方や、保育者の在り方について学ぶ。授業で学んだ内容と現場での体験を関連づけて生かす。		

【授業計画】	
前期	後期
	○見学・観察実習 ・幼稚園の要覧などを通じて、実習園の教育方針を知る。 ・実習園の人的環境及び地域環境等の諸条件について知る。 ・保育全般を観察し、指導内容や指導技術の基礎を学ぶ。 ・幼児の特質、個性、能力の差異について知る。 ・指導計画と実際の指導との関連や教育の流れを考察する。 ・清掃や整理についての方法を学び実践する。 ・教育実習日誌に記録を整理し、指導教師に提出する。 ○参加実習 ・幼児との触れ合いを通して、幼児の実態を把握する。 ・指導教師の指示に従い、教育の準備や片付けを行う。 ・健康観察、家庭への連絡方法等、教育上必要な事項について知る。 ○指導実習(部分) ・保育の一部を受け持ち、保育の実践を経験する。 ・保育内容の指導にあたっては指導教師の指導を受け、実践する。

テキスト	「教育実習の手引き」 竹早教員保育士養成所 DVD「教育実習生の日」
参考文献	「実習ワーク」 朋文書林 「実習日誌の書き方」 朋文書林
授業時間外における学習方法	手遊び、絵本や紙芝居などの教材を探し、演じることができるように準備し練習しておく。
成績評価の方法	実習園による評価結果に基づく。
その他・注意事項	欠席や遅刻、早退については補充を行う。ただし、3日以上欠席の場合は再実習となる。

科 目 名	保育実習指導Ⅰ(保育所)	担当教員	上藤千香子・高橋系子
実施学期	後期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	保育実習Ⅰ(保育所)の保育実習を円滑かつ効果的に進めるための知識・技術を習得し、実習意欲を高めるためとともに、実習内容・課題を明確にする。保育実習を行う前の知識・技術を学ぶ。
授業の概要	保育実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの理解、保育実習の意義と目的を理解する。保育者の役割を理解する。オリエンテーションの理解と受け方、実習の計画・観察と参加実習の在り方、記録の取り方、評価の方法等、具体的に学ぶ。

【授業計画】	
前期	後期
	1 保育実習Ⅰ事前指導① 保育実習計画 ・保育実習の講義、目的 ・保育実習の時期と実習施設 ・保育実習の実習内容(講習単位、ねらい、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの理解など) 2 保育実習Ⅰ事前指導② 事前準備 ・保育所の理念・方針、保育士の資質、子どもとのかかわり ・保育所の生活(デイリープログラムや保育所の特性) 3 保育実習Ⅰ事前指導③ 事前準備 ・実習生の心得、実習生の健康管理、保育実習の実際 4 保育実習Ⅰ事前指導④ 実習内容 ・実習日誌の書き方(実習日誌に活かす記録の取り方)、エピソード記録の書き方 5 保育実習Ⅰ事前指導⑤ 事前準備 ・オリエンテーションの理解・受け方、実習先確認、書類作成、細菌検査指導など 6 保育実習Ⅰ事前指導⑥ 実習内容 ・年齢別発達の目安と理解(0～2歳児) 7 保育実習Ⅰ事前指導⑦ 事前準備 ・オリエンテーションの注意事項、電話のかけ方 8 保育実習Ⅰ事前指導⑧ 事前準備 ・教材研究、季節の遊び・年齢に合わせた遊びの実践と教材の選択 9 保育教材(絵本・紙芝居・制作) 手遊び、集団遊びなどの研究・演習 10 部分実習指導の書き方・作成、教材試作① 11 部分実習指導の書き方・作成、教材試作② 12 部分実習指導案に合わせた教材発表 13 保育実習日誌の確認、部分実習概要発表、細菌検査結果配布 14 保育実習Ⅰ事後指導 実習振り返り 実習日誌の取り扱い、反省・まとめ、礼状 15 保育実習Ⅱ・Ⅲの選択・準備 ・電話のかけ方、内諾・承諾、書類作り
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
テキスト	「保育実習の手引き」(竹早教員保育士養成所) 「実習ノート」(竹早教員保育士養成所)
参考文献	適宜必要に応じて資料など配布する。
授業時間外における学習方法	保育内容に関する授業の復習と、各年歳児の発達段階を確認する。
成績評価の方法	授業態度、課題の提出の状況などにより、総合的に評価する。
その他・注意事項	規定以上の欠席者は、保育実習への参加はできない。

科 目 名	保育実習 I (保育所)	担当教員	1年担任
実施学期	後期		
授業形態	実習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	保育所で乳幼児とともに生活する中で、この時期の子どもに対する理解を深める。 保育所の機能やそこでの職員の職務内容を学ぶ。
授業の概要	保育所の機能や保育内容など、実際の体験を通して理解し、各教科で学んだ理論が実習先でどのように行われているかを知る。

【授業計画】	
前期	後期 ●見学・観察実習 ◎実習園の概要を把握し、保育方針を知る。 ・保育所の存在する周辺地域の状況。 ・保育所の機能とその役割 ・保育所職員の仕事内容やその役割。 ◎保育全般を観察し、保育内容や保育技術の基本を学ぶ。 ・保育所の一日の流れを知る。 ・子どもの観察を通じて乳幼児の一般的な発達を知る。 ・保育者の子どもへの声かけやかかわり方を通して子どもへの具体的な援助方法を学ぶ。 ◎保育環境の清掃や整理整頓の方法を知り、清潔や安全について学ぶ。 ◎保育実習日誌に観察した内容を整理して記録し、担当者に提出する。 ●参加・部分実習 ◎保育者の指示や指導に従い、保育活動に参加する。 ・一日の生活の流れ(受入れ時の健康観察、活動、休息など)の意味と内容を知る。 ・乳幼児との遊びやかかわりを通して各年齢の発達を理解する。 ・個々の子どもやクラス集団について知る。 ・清掃や整理整頓など衛生や健康、安全のための環境設備について具体的に学ぶ。 ・遊びのための環境構成について、保育の準備や後片付けの通して積極的に体験する。 ・養護に関わる基本的な生活の中で、保育者の子どもに対する働きかけ方や援助の仕方を学ぶ。 ・保育者の指導のもと、子どもの遊びに積極的に加わり、遊びへの働きかけや援助の仕方を学ぶ。 ・保育の補助者としての役割を体験する。 ◎保育の一部を受け持ち、保育の実験を経験する。 ・基本的な生活の一部である排泄、衣類の着脱、手洗いを始め食事の準備や後片付け、子どもの誘導などの実習を行う。 ・絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊び、パネルシアターなどの保育を経験する。 ◎保育内容の実践にあたっては、担当保育士の指導のもと行う。 ＊各園にある指導計画(月案・週案)、連絡帳を見せていただく。
テキスト	「保育実習の手引き」 竹早教員保育士養成所 「実習ノート」 竹早教員保育士養成所
参考文献	特になし。
授業時間外における学習方法	子どもたちと接する機会を作るとともに、子どもたちの様子をよく観察するなど、関心をもたせる。また、保育図書などもそろえて学ぶ姿勢を持たせる
成績評価の方法	実習園による評価結果に基づく。
その他・注意事項	欠席や遅刻、早退には、補充実習を行う。ただし、3日以上欠席は再実習となる。

科 目 名	音楽 I	担当教員	白井・片桐・須田・佐藤・仕入 鉄矢・毛塚・水城・生田
実施学期	通年		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】幼稚園・保育所における子どもの表現活動を展開するために必要な音楽の基礎的な知識を理解し、ピアノの基礎技術を習得することを通して、実践の場で活用できる音楽的な実践力の向上をめざす。 【到達目標】①読譜ができ、音楽用語・記号を参考にしながら曲想の工夫ができる。 ②子どもの歌の弾き歌いができる。 ③場に応じた曲づくりやアレンジができる。
授業の概要	本授業では、音楽理論の理解と演奏技能の習得について、グループによる指導と各個人に合わせた個人指導を組み合わせ進めていく。

【授業計画】	
前期	後期
1 オリエンテーション。各自の目標設定。	1 実習にむけて①(生活の歌の伴奏)
2 ピアノに親しむ①(ト音記号)	2 実習にむけて②(季節の歌の伴奏)
3 ピアノに親しむ②(ヘ音記号)	3 ニ長調について理解する
4 主要三和音を理解する	4 付点に慣れる①
5 いろいろな伴奏型に挑戦する	5 付点に慣れる②
6 音階について理解する	6 短音楽について理解する
7 ト長調を理解する①(音階)	7 短調の曲を演奏する
8 ト長調を理解する②(主要三和音)	8 6/8拍子のリズムを感じる
9 ヘ長調を理解する①(音階)	9 初見奏に挑戦する
10 ヘ長調を理解する②(主要三和音)	10 試験曲に取り組む①(選曲)
11 拍子について理解する	11 試験曲に取り組む②(ピアノ曲)
12 いろいろなリズムを感じる	12 試験曲に取り組む③(子どもの弾き歌い)
13 練習(ハ長調・選曲と練習)	13 曲想表現の工夫して演奏する
14 曲想を工夫して演奏する	14 声と伴奏のバランスを考えて演奏する
15 まとめ	15 まとめ
定期試験	定期試験
テキスト	「音楽 I テキスト」 竹早教員保育士養成所 「こどものうた100」 チャイルド社 「ブルグミュラー25の練習曲」 全音楽譜
参考文献	必要に応じて資料を配布する。
授業時間外における学習方法	【事前学修】授業前に出された課題について読譜し、十分に練習し、演奏できるよう準備する。 【事後学修】授業の内容を振り返り、さらに演奏の完成度を高めることをめざす。
成績評価の方法	試験での演奏、授業での発表、授業態度により、総合的に評価する。
その他・注意事項	欠席することがないように努めること。授業で出された課題は必ず次の授業までに、よく勉強し練習に励むこと。 授業には積極的に参加し、疑問点については、できるだけ早く解決すること。毎日、継続してピアノに取り組むことが大切である。

科 目 名	自然体験	担当教員	1年担任他
実施学期	前期		
授業形態	実習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	豊かな自然環境の中で、宿泊研修を通して、入学直後の学生相互の人間関係を深めるとともに、保育者としての資質・能力を高める。
授業の概要	集団宿泊体験活動を通しての保育者意識の高揚と保育技術の向上を図る。

【授業計画】	
前期	後期
1 宿泊研修の企画・実施について	
2 自然の中での体験学習の企画・運営について	
3 事前準備(各係の決定)	
4 事前準備(しおりの作成など)	
5 人間関係を築く方法①(人間関係プログラム)	
6 人間関係を築く方法②(グループディスカッション)	
7 保育者に必要な技能①(手遊びの練習)	
8 保育者に必要な技能②(手遊びの発表)	
9 保育者に必要な技能③(野外炊事)	
10保育者に必要な技能④(キャンプファイヤーの計画・準備)	
11保育者に必要な技能⑤(キャンプファイヤー)	
12自然環境の中での感動体験	
13集団生活における協働性の育成	
14まとめ(報告書の作成)	
15事後の評価・反省及び今後の課題確認	

テキスト	自然体験宿泊研修しおり。
参考文献	特になし。
授業時間外における学習方法	特になし。
成績評価の方法	自然体験に積極的に参加する態度、また、事前準備や調査研究のまとめの報告を中心に評価する。
その他・注意事項	特になし。

科 目 名	(選択)言語教育	担当教員	辻 杉子
実施学期	前期		
授業形態	講義	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	保育者としての資質向上を目指し、目的や状況に応じた必要な言語能力を習得する。そのため、保育者に求められる話し方、文字の使い方、手紙や関係文書の書き方等の知識と技能を学び、実際の場面で生かせる力を身に付ける。
授業の概要	保育者に求められる言語能力の発揮場面を想定し、その基本的知識と実際について解説する。前半は主に話す・聞く力の育成を中心に、後半は主に書く力の育成を中心にして実際の状況を設定し、具体的に取り組むことで保育者にふさわしい言語能力を身に付けられるようにする。

【授業計画】	
前期	後期
1 会話表現 話し方の基礎(保育者としてよい国語表現をするために)	
2 会話表現 話し方の基礎(聞き取りやすい話し方、あいさつ、敬語)	
3 会話表現 話し方・聞き方の基礎(発声、自己紹介、話の聞き方)	
4 会話表現 現場での話し方(実習先との連絡、子どもへの言葉かけ)	
5 会話表現 現場での話し方(就職面接、保護者との話し方、電話対応)	
6 文章表現 表記の基礎(文字の書き方、表記の仕方)	
7 文章表現 文章作成の基礎(留意点)	
8 文章表現 実習日誌の書き方(用語表現と留意点)	
9 文章表現 指導計画の書き方(計画立案と留意点)	
10文章表現 関係文書の書き方(礼状など、手紙やハガキの書き方)	
11文章表現 関係文書の書き方(メールや履歴書の書き方)	
12文章表現 小論文の書き方(原稿用紙の書き方、構成の仕方)	
13文章表現 連絡帳の書き方(基本的な留意事項)	
14文章表現 園だよりの書き方(基本的な留意事項)	
15話す・書く まとめ	
定期試験	

テキスト	「保育者になるための国語表現」 田上貞一郎 萌文書林
参考文献	特になし。
授業時間外における学習方法	日常生活の中で正しい話し方を実践する。 実習に役立つ手紙、はがき、日誌の書き方を練習する。
成績評価の方法	定期試験(70%) 授業態度や提出物(30%)
その他・注意事項	毎回の振り返りを大切にし、学んだ内容の定着を図る。

科 目 名	〈選択〉国語表現	担当教員	須釜 久美子
実施学期	前期		
授業形態	講義	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	幼稚園教諭・保育士として必要な事柄や自分の考えを的確に言葉で伝える力を高める。 ○言葉や漢字、文・文章についての基礎的な知識をもつことができる。 ○文章構成の基本をふまえ、必要な情報を根拠にして自分の考えを明確に論理的に伝える文章を書くことができる。 ○書くことを通して、教育・保育について自分の考え方を深めることができる。
授業の概要	○文章表現における基礎的・基本的な知識を身に付ける。 ○課題に応じた資料や事例をもとに、課題について考えたことを整理してメモする。 ○メモをもとに小論文を記述し、自己評価・相互評価する。

【授業計画】	
前期	後期
1 国語力とは何か、文章表現の基本 （文章表現に必要な知識と能力） 2 文章表現における基礎知識・1 （四字熟語、慣用句） 3 文章表現における基礎知識・2 （ことわざ、故事成語） 4 文章表現における基礎知識・3 （文の係り受け、漢字） 5 敬語の種類と使い方 （場面に応じた敬語の正しい使い方） 6 手紙の書き方・通知文の書き方 （依頼・案内・礼状、公文書） 7 小論文の書き方の基本 （課題論文と事例論文） 8 小論文を比べて読む （保育者の役割、児童虐待防止の論文） 9 個人的な課題に対応した小論文の書き方 （課題について自分の考えを明確にした文章） 10 社会問題に対応した小論文の書き方 （保育にかかわる社会問題を考えた文章） 11 専門的な課題に対応した小論文の書き方 （保育観を論理的に表現した文章） 12 幼児の事例問題とその解決を表した小論文の書き方 （幼児の事例について指導の在り方を考えた文章） 13 保育に関する事例に対応した小論文の書き方 （危機対応の仕方を論理的に表現した文章） 14 保育に関する事例に対応した小論文の書き方 （事例を読み取り、主張を論理的に表現した文章） 15 まとめ （課題解決を自力で文章表現する） 定期試験	
テキスト	教材は、書籍や新聞などから抜粋したものを使い、毎回印刷して配布する。
参考文献	特になし。
授業時間外における学習方法	日頃から新聞やテレビニュースを通して、身の回りや社会の出来事に目を向け、それらに対する自分の考えをもつようにする。 幼稚園教育要領や保育所保育指針を読み込んで、専門用語の理解を深めておく。
成績評価の方法	期末試験60%、授業での文章表現30%、授業中の真剣な態度10%とし、総合的に評価する。
その他・注意事項	授業の資料などを整理するノートやファイルを用意する。

科 目 名	〈選択〉生活科学	担当教員	中山 千裕
実施学期	前期		
授業形態	講義	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	成人も未来を背負う子どもたちも安心して幸せな生活を送るためには、基礎的な現代社会を取り巻く状況の把握が必要である。 この授業では、履修者が保育に関連付けながら①社会の問題になっている事柄について基本的な知識を身に付け、②現代社会がもつ問題点を考える上で国際的視野を持ち、③自分自身が安心して生活するための行動力を形作ることを目標としている。
授業の概要	少子高齢化社会に関する現状を把握し、それらに関する日常的に報じられているニュースが現在の自分の状態とこれからの自分の将来とどうかかわっているか探る。さらに、我が国の現状をグローバルな視点をもって保育にかかわる世界の統計を使いながら考える。具体的には、あらためて意味を説明しようとする、なかなか難しい言葉、つまり「いまさら人にきけない用語」を授業で、たくさん解説することから始めていく。18歳から法的には成人となることから、社会・経済の知識と安全に暮らすための基本的な金融知識を身に着ける。

【授業計画】	
前期	後期
1 人口データの見方	
2 日本の少子化の実態とその原因をめぐる議論	
3 世界各国の合計特殊出生率と労働参加率の関係	
4 育児と神話	
5 GDPと女性の労働	
6 家事と育児の国際比較	
7. 1回から6回のまとめ	
8 税金のしくみ	
9 保険の制度	
10 社会保険(1) 医療保険	
11 社会保険(2) 年金保険	
12 子どもに関わる社会保障制度	
13 生活のための財源の話(預貯金とカード)	
14. ローンの話	
15 8回から14回の復習とまとめ	
定期試験	

テキスト	毎回配布する授業資料
参考文献	「大学生のための人生とお金の知恵」金融広報中央委員会 2022年 「はじめての社会保障20版」 棕野美智子・田中耕太郎著 有斐閣 2023年
授業時間外における学習方法	【事前学修】配布資料は事前に渡すのであらかじめ読んで授業に参加する。 【事後学修】授業の内容を踏まえ、テキストを読み直し、自分なりの考えをまとめておくこと。
成績評価の方法	毎回の課題の内容と小テストにより、総合的に評価する。
その他・注意事項	身近な問題を考えることからスタートする。どんどん視野を広げていくこと。